

『実例詳解古典文法総覧』補遺稿

連載第15回 第5.3節～第5.4.3節

2018年8月1日

小田 勝

「5.3 リ形・タリ形」の135-136頁。助動詞「り」の接続について、「命令形」に付くと説明されることがあるが、そのことについて説明するのを忘れていた。専門家には不要の事柄だが、一応ここに述べておく。奈良時代では、四段活用の已然形は-eの乙類、命令形は-eの甲類で、両者は別の音であった(カ・ハ・マ行の場合。§1.10)。助動詞「り」は本書に述べたように i-ari > eri と転じた末尾音 ri を分出したものなのだが、ia は融合すると e の甲類に転ずるので、「り」の直前の e 音は奈良時代では命令形の-e と同じ音となる。「り」を命令形接続と説明することがあるのは、このためである。ただしこれは音変化の結果偶々命令形と同音になったのであって、命令形という活用形に接続したものではない上に、平安時代以降は甲乙の音の区別が無くなることもあって、(既実現の事態を託する活用形として) 已然形接続とするほうが(学習者には)穏やかであろうという考え方もある(どうせ、命令形でも已然形でも真実ではないのだから)。なおサ変も命令形接続とすると、「よ」の無い命令形「せ」に付くなどとしなければならなくなる(そもそも、サ行には甲乙の別がないから、サ変については命令形接続とする根拠自体がない。なお、二段活用にリ形がない理由は、136頁下7行に記してある)。

さて、138頁3番目の◆、「持たり」の例を追加する。

・我のみや子持たりと言へば武隈ののはなはに立てる松も子持たり (袖中抄)

139頁最初の◆の類例をあげる。

・畳ところどころ引き返したり (=裏返シテアル)。(源・須磨)

2番目の◆について、初刷・第2刷で「おはす」のリ形」とあったものを、第3刷で「おはす(存在)」のリ形」とした。次例は「ありあふ」のリ形である。

・色好み法師の娘ども三人ありて、みな清げにありあへりて、承香殿の女御の御方にさぶらひて、人々にいどまれしほどに(大弐高遠集・詞書)

140頁用例(15)について。初刷では、引用元の鈴木泰(1995:212-213)によって、「[紫上ハ]立ちておはしぬ。」「紫上が場面から去り」としたが、立ち去ったのは明らかに匂宮の方であるから(紫上は病で臥している)、第2刷で「[匂宮ハ]立ちておはしぬ。」「匂宮が場面から去り」と改めた(新全集では503頁のところ)。

同頁最初の◆の①～⑥の類例をあげる。

- ・ 八郎 (= 為朝) は、^{かたき}敵 (= 大庭景義) 射落として、「あ、したり」と思ひて申しけるは、「…これほど射はづいたることは覚えね。…^{ぬし}主はよも死なじ」とぞのたまひける。(保元) <コノ「したり」ハ、「シクジッタ」「失敗シタ」ノ意>
- ・ 判官、寿王の顔をつくづくとまもり、涙を流して「いしく言ひたり。汝、幼ければ…」と言ひければ (承久記・古活字本)

中世には、未実現の事態の完了を表す例もみえ始める。

- ・ あれ一人を打つたりとも、負くべき [戦ニ] に勝つべきか。(保元)

141 頁「5.4.1 あり…」次例は、「あり経」の敬語形と思われるが、珍しい形である。

- ・ 御はらからの君達、この愛宮の泣き悲しび給ふを聞き給ひて、あはれがり聞こえ給ふも、物を聞こえでおはしふる。(多武峰少将物語)

同頁「5.4.2 …をり」。「…てあたり」について、野田高広 (2010) によれば、『今昔物語集』において、「…てあたり (…である)」と「…てあり」は、主として「主格維持性」(ある状態が主格に立つものによって維持されているか否か) の有無によって、選択されるという。

- ・ a 僧、これを食ひてみたるほどに (今昔 19-33) <主格維持性あり>
- ・ b 答へて言はく、「その児は村の南の田の中に独り走り戯れてあり。呼べどもあへて来たらず」と。(今昔 9-24) <主格維持性なし>

「5.4.3 …つつあり」の後に、節を新設する。

5. 4. 3' その他の継続の意を表す補助動詞(新設)

次のような「…ありく」は、「…続ける」「…して過ごす」の意を表す。

- (1) 中納言殿 (= 薫)、[匂宮ノ縁談ノコトヲ] 聞き給ひて、あいなく物を思ひありき給ふ。(源・総角)
- (2) かく^{つかまつ}仕りありく (= 才育テ申シ上ゲテイル) 源氏の君のおはしますほどに (うつほ・吹上上)

その他の継続の意を表す補助動詞に「-あかす」「-くらす」「-すぐす」「-わたる」などがある。

[出典追加] 袖中抄①顕昭②1186-87年頃③日本歌学大系別 2

[引用文献追加] 野田高広 2010 「『今昔物語集』のアスペクト形式Vテイル・テアルについて」『日本語の研究』 6-1